実践事例６　テーマ　「地域と連携した活動の展開」

住田町立有住中学校

連携のポイント

★　学校の総合的な学習の時間を利用して地域に伝わる伝統文化体験学習・森林学習を行いました。

★　長期休業を利用して小中連携の地域活動を行いました。

Ⅰ　こんな課題が

1　住田町立有住中学校について

全校生徒 76 名。各学年１学級ずつ計３学級の小規模学校。地域は山村地域で比較的地域との連携は行いやすい学校です。特色ある学校づくりとして「全校トレーニング」に取り組んで効果をあげています。また、生徒会活動を中心とした新聞・合唱活動も行っています。

2　課題

(1) 地域の課題

学区は、人口約 2,000 人。少子高齢化が進んでいます。町として後継者不足や職場が少ないという課題があります。

(2) 学校の課題

地域にある森林とのふれ合いや伝統文化の体験が不足えてきました。素直で明るい子どもたちではあるが、たくましさを育成する必要があります。

Ⅱ　課題解決に向けて

学校と地域・小中学校が連携して課題解決を実践することで効果があると考えました。そこで、町・地域の方々・小学校と連携して次のような実践を試みました。

竹工芸の様子

Ⅲ　こんな実践を

1　伝統文化体験学習

(1)　ねらい

地域文化の継承と郷土への愛着を深めること。地域の人たちとの交流を深めること。

(2)　内容（全学年対象）

ア　開設講座

竹工芸・かぎ針編み・手芸・ちぎり絵・木工・郷土料理

イ　講師

地域の高齢者を中心に全部で 20 人程度。

ウ　実施時間

総合的な学習の時間を利用して４時間で行う。

エ　講師の人選

①　各地区の老人クラブへの案内を出し選んでもらう。

②　地域の人材を学校で教育委員会の協力を得て選ぶ。

(3) 成果

普段行うことのない、地域に伝わる伝統文化を実際に体験し、伝統文化への興味を持つことができました。体験活動を高齢者の方と行い、活動だけでなく高齢者との交流もでき、地域での今後の活動に役立っているようです。

(4) 課題

開設講座に限界があるために、毎年同じような講座しか開催できません。材料の準備等、講師の方にかなりお世話になっています。

2　地区一斉活動

(1)　ねらい

冬季休業を利用し、地区ごとに小中学生が協力して、地域の方と一緒に活動をし、感謝の気持ちを表す。

(2)　内容（対象全生徒・小学校全児童）

ア　具体的な活動

おたすけマン（ボランティア活動）・年賀カード作り・郷土料理

イ　実施日時

冬季休業中（12月25日午後）

(3)　小学校との連携

ア　中学生が小学校に行って説明

イ　当日中学生は小学生の世話

(4) 成果

各地区ごとに工夫した活動を小中学生で行い、小さい頃からお世話になっている地域への貢献ができました。その活動の中で、今年度は小学生と活動をしました。中学生は自分のことだけでなく、小学生のお世話もしました。

(5) 課題

今年度初めて小中合同で行ったため、何かと不十分な点がありました。中でも、内容は郷土料理が多く、地域に感謝するよりも、地域の方のお世話になることの方が多くなってしまいました。

また、小学生も全員参加にしたために、人数の多いところは、小学生のお世話が大変な地区もありました。

3　森林学習

(1)　ねらい

森林学習を通して、住田の森林環境・地球全体の環境を考える。

(2)　内容（２・３年生対象）

ア　実施時間

総合的な学習の時間15時間

イ　具体的な学習内容

①　地球温暖化対策

②　ペレット工場見学

③　林業体験（間伐作業）

(3)　住田町との連携

ア　産業振興課の協力

講師派遣（森の案内人等）

イ　予算上の援助

ウ　町有林の利用

間伐体験

(4) 成果

町の 90％以上を森林がしめ、「森林・林業日本一の町」を目指している住田町に住んでいながら、森林に関する知識が少なかったのですが、この学習を通して森林（住田町の森林）について学習を深めただけでなく、実習もあり、林業への興味がより深まりました。

(5) 課題

これも今年度初めての学習のため、不十分な点がありました。来年度は次のような学習にしたいと思います。

ア　３年間を見通した学習にする。

イ　各学年に応じた内容を考える。

ウ　学校中心で内容を考え、必要なところを援助してもらう。

Ⅳ　まとめ

地域と連携しながらの活動を、本校では上記のように行ってきました。このような活動を通して、子供達にとって本校ならではの活動ができていると思います。その結果、地域への愛着や地域への貢献をしたいという心ができていると思います。

これからも、今の活動に満足せずに、よりよい地域連携活動を目指して取り組みを行っていきたいと思います。

実践事例７　テーマ　「幼児との交流　～家庭科の保育実習を通して～」

釜石市立甲子中学校

連携のポイント

★　家庭科の保育実習を通して、教科担当、地域連携の窓口となる教員が中心となって、地域にある幼稚園と連携した学習を展開しました。

Ⅰ　こんな課題が

１　地域の今日的な課題

近年、甲子地区も少子高齢化が進み、核家族の家庭が多くなり、生徒数も減少傾向にあります。このことによって生徒たちは、地域とのつながりや異世代間の交流も少なくなり、地域で育まれた実感を得ることが難しくなってきました。

２　学校・教科としての課題

家庭科「家族と家庭生活」の単元では、保育学習を通して幼児期への理解を深めます。学んだ内容をより確かなことにするためには、幼児と直接交流することが望ましいと考えます。それを実現するためには、教科担当者だけでは手続きや時間的な問題など難しいことが生じてきます。

Ⅱ　課題の解決にむけて

１　校内体制の構築

地域で受け入れる幼稚園や保育園を探すことから交渉・打ち合わせ等、保育実習に係る用務について、教科担当者と地域連携窓口教員が協力し合い、校内体制で取り組みます。

２　学習内容について

保育実習の目標「幼児とのふれあいに関心を持って臨み、関わり方を工夫したり考えたりすることができる」に迫るために、次のような学習内容を盛り込みます。

(1) 幼児の立場に立って考え、グループごとにおもちゃを作成・持参し、遊びながら関わること。

かみしばいの読み聞かせ

(2) 個々に課題・テーマを持たせ、幼児の様子を目的意識を持って観察させること。

(3) 幼児と接する際に気を付けることを確認すること。

Ⅲ　こんな実践を

「私立正福寺幼稚園での保育実習」

１　連携について

(1)　４月上旬

地域連携窓口教員が、学校の近くにある私立正福寺幼稚園に保育実習受け入れについて交渉し、打ち合わせ日程を決めました。

でんしゃごっこ

(2) 打ち合わせ

私立正福寺幼稚園で、学習内容と実習の留意点、前期・後期の実習日程、助言について確認しました。

2 保育実習

(1) 期日

平成 18 年 6 月 27 日（火）

…2 年 B 組（28 名）

平成 18 年 12 月 19 日（火）

…2 年 A 組（27 名）

(2) 日程

8:50～ 9:20	日程・目標確認
9:30～ 9:40	徒歩で移動
9:45～ 9:55	始めの挨拶・諸連絡
10:00～11:00	実習
11:05～11:20	先生方のお話 お礼の挨拶
11:25～11:35	徒歩で移動
11:40～12:20	まとめ

(3) 実習の様子

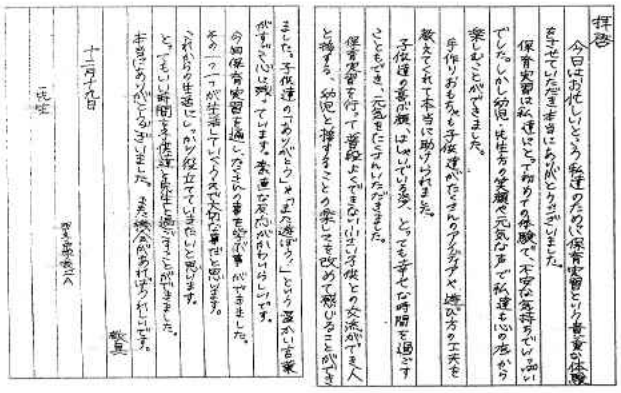
初めはどの学級も、生徒たちと園児達の自己紹介から入りました。どのように接したら良いか、とまどう生徒の姿が多く見られました。しかし、自分から積極的に園児に話しかけること、笑顔を絶やさずに明るく振る舞うこと等、幼稚園の先生方が手本を示して下さいました。生徒たちが関わるきっかけを示して下さることも多く、各学級では、幼稚園の先生方が実習の間、生徒たちを見守って下さいました。

おさかなつれたかな？

実習の後半になると、園児の目線に合わせて低い姿勢で語りかけるなど、生徒は身をもって関わるこつをつかみ、表情もだいぶやわらいできました。

3 実習を終えて

生徒たちは帰校後、ただちにお世話になった保育園の園児達や先生方にお礼状を書きました。生徒の満ち足りた表情とその文面から、充実感が見てとれます。



拝啓

今日はおせわしいところ私達のために保育実習という貴重な体験をさせていただき誠にありがとうございました。

保育実習は私達にとって初めての体験で不安な気持ちでいっぱいでした。しかし幼児・先生方の笑顔で元気な声で私達もいつの間からか楽しむことができました。

手作りおもちゃも子供達がたくさんアイデアを出し方の工夫を教えてくれて本当に助けられました。

子供達の喜ぶ顔はいきいきしていて、とっても幸せな時間を過ごすことができ、元気をたくさんいただきました。

保育実習を行って普段よくできないいろいろな子供との交流ができ人と接する、幼児と接することの楽しさを改めて感じることができました。子供達のこのぬくもりを忘れないでいます。素直な友だちがたくさんいるしいです。

今回保育実習を通じたくさんの事を学ぶ事ができました。

その一つ一つが生活していくうえで大切な事だと思います。

これからの生活にこの学習を役立てていきたいと思います。

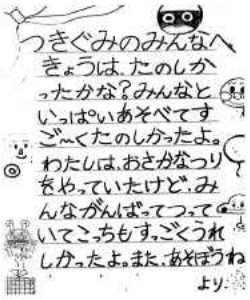
とってもいい時間を子供達と長く共に過ごすことができました。

本当にありがとうございました。また機会があればよろしくです。

敬具

十二月十九日

正福寺幼稚園



つきぐみのみんなへ
きょうは、たのしかったかな？みんなといっぱいあそべてすごーくたのしかったよ。わたしは、おさかなつりをやっていたけど、みんながんばってつっていてこっちもすごくうれしかったよ。また、あそぼうね
より

たんぽぽぐみさんへ
みんなとあそべてすごくたのしかったです。またたくさんあそびましょう。

生徒たちが書いたお礼

Ⅳ まとめ ～こんな成果が～

1 地域の幼稚園と連携を図ることによって、学校の校務分掌が活性化されました。

2 私立正福寺幼稚園の先生方からは、「卒園生の成長した様子がうかがえて良かった。態度や言葉遣いも立派でした。」という講評を得ました。また、「地域の生徒たち」という考えから保育実習が 3 年間も続いています。

3 家庭に幼児がいない生徒も、幼児との関わり方を学ぶことができました。また、地域とのつながりや多くの人たちのおかげで自分の成長があることを学びました。さらに将来、よき家庭人、地域住民となる気持ちや人に対する思いやりの心も学んだと思います。

実践事例８　テーマ　「地域住民とのふれあいによる豊かな心の育成」

宮古市立山口小学校

連携のポイント

★　地域住民の方々にそれぞれの得意分野や活動の実践の場として学校を開放し、子どもとのふれあいや交流をしていただくことにより、子どもの体験を広げ豊かな心の育成に努めるとともに、多くの地域住民の目により学校の安全が守られる体制づくりに取り組みました。

Ⅰ　こんな課題が

１　地域の課題

この地域は、市街地であり旧来からの住宅地です。古くからの団地・アパートも多く、子育てを終えた高齢者世帯と若い世帯が混在しています。お年寄りの方から見ると、地域に子どもはいるものの、その数は減少し、結びつきは一時代前から比べると、希薄なものになっているという声を聞きます。

２　学校の課題

本校は、全校児童約 380 名の中規模校です。

世相を反映し、共働き家庭、核家族家庭も多く、片親家庭の割合も低くはない状況です。放課後は学童保育に向かう児童も多く、お年寄りとのふれあいや交流体験の少ない子どもが多い傾向にあります。

ゲーム機やテレビ等を通した遊びの体験はあるものの、昔ながらの遊びや創作活動、文化的体験は、少ない傾向にあります。

Ⅱ　課題の解決に向けて

１　めざすこと

地域のお年寄りの得意分野や活動によるふれあいを通して、地域や学校の課題を解決し、子どもたちに豊かな心を育むこと。

２　考え方

(1)　学校を訪問しさまざまな活動や交流をしていただくことにより、子どもは、地域の方々とのふれあいや、日頃は得られない体験ができるのではないか。

(2)　ふれあいや体験を通して、子どもたちに工夫する心、ものを創作し大切にする心、他者を大切にする心、奉仕の心、尊敬や感謝の心などの心情を育むことができるのではないか。

(3)　地域の方々には、子どもとのふれあい、得意分野の実践、自己実現などの様々な喜びを感じていただけるのではないか。

Ⅲ　こんな実践を

１　地域への協力依頼および説明会

「ふれあい教室」の講師、スクールガードの方々、ＰＴＡ役員、学校長等による懇談会を開催し、次のような内容で理解と協力を願う場としました。

(1) 授業参観による子どもの学校生活の理解

(2) 地域の子どもの姿の情報交換と共通理解

(3) 今年度の協力活動へのお願い

２　具体的実践

(1) 公開講座：ふれあい教室

ア　公開講座の設定と募集

家庭向け配付文書により、公開講座の趣旨と内容を説明し参加者を募集した。

イ　公開講座の実施（昼休みや放課後）

①「遊戯路」で遊ぶ会

発明好きで昔遊びを教えてくださる講師による考案・制作の「遊戯路」（石蹴り遊び）で遊ぶ会を中学年児童対象に開催しました。児童は遊び方について聞いたり、一緒に遊んだりすることで講師の人柄にふれ、普段の自分達の遊びにはない体験をしました。

②　紙工作教室・手芸教室

ａ　１・２年生は、講師の方より「マジックカード」制作を教えていただ

きました。簡単な手品のできるものが完成し、大喜びで講師とともに何度も遊び交流することができました。

b　3・4年生は、日頃は馴染みのうすい千代紙を材料に和紙人形や箸入れ作りを教えていただきました。できたものは、家族で使ったり飾って楽しんだりするようお話していただきました。

c　5・6年生は、マフラー編みを教えていただきました。毎週1～2回と継続した講座となる中で、講師との心の交流がなされ、その中で手作りのよさ、丁寧に取り組む心、できた喜び、感謝の心などを感じ取ることができました。

編み物を学んでいます。

③　茶道教室

1～6年生の希望者54名が5つのグループに分かれ茶道を体験しました。講師のお話や実際の動作を通して、もてなしの心、感謝の心、あいさつ、礼儀・作法などを学びました。また、茶道具等の片付け等に進んでお手伝いする気持ち、講師への感謝の心も培われました。

低学年の子どもが、礼儀・作法やあいさつを学んでいます。

(2) 防犯・交通安全への見守り活動

ア　登校時の交通安全・あいさつ活動

地域住民有志の方々が、学区内各所にて登校時の交通安全見守り活動をしています。挨拶や励ましの声がけもいただきます。その応答による交流が、子どもたちの地域の方への親近感や、進んで相手に関わり、挨拶しようとする心を培っています。

イ　下校時の見守り活動

地域住民有志によるスクールガードの方々に下校時の安全見守りや学区内の巡回、集団下校での安全確認をしていただきました。子どもは自分たちのために活動してくださる方々の存在を知り、感謝の心を持つことができました。

(3)「ありがとう集会」

子どもたちに、学校生活が地域の方々からの様々なお世話や協力をいただいていることに気づかせ、感謝の気持ちをもってあいさつや協力をしていこうとする心情を培うことを願って児童集会を開きました。

集会では、日頃お世話いただいている内容の紹介や感謝の言葉を発表しました。また、給食も一緒に食べ、交流も深めました。

招待者は、(1)(2)にあげた方々に加え、校庭の草取り作業をしてくださった老人クラブの方々も入っています。老人クラブの方々は、子どもたちに楽しんでもらいたいと、踊りの出し物をしてくださいました。子どもたちは、予想外の展開と楽しい踊りに大喜びでした。

Ⅳ　まとめ ～成果と課題～

子どもたちが、お年寄りを含む地域の方々と様々な場面や活動を共にし、ふれあいを持つということは、日頃の学校生活や家庭生活では得られない豊かな体験が広がるということです。それにより、子どもたちには少しずつですが、各実践事例で述べてきたような様々な心情が培われてきています。これらの心情体験が、豊かな心の育成に役立つことを願うものです。

実践事例９　テーマ　「図書館ボランティアとの連携を生かした総合的な学習の時間の展開」

野田村立野田中学校

連携のポイント

★　図書館ボランティア（豊かな心を育むことをめざし活動する地域有志による団体）との連携により「総合的な学習の時間」を展開し、中学生による「読み聞かせ」活動を地域の各施設で実践しました。

Ⅰ　こんな課題が

1　地域の課題

野田村は、太平洋に面し県北に位置する、豊かな自然に恵まれた村です。人口は減少傾向にあり、少子高齢化が進んでいます。

2　学校の課題

村内の小学校・中学校は一校のみであり、義務教育９ヵ年は同じ仲間で過ごすことになります。幼い頃から同一メンバーであるため、何も言わなくてもわかりあえるという安心感が生徒にはあります。

その反面、いつもと違う環境に対して必要以上に不安を感じる生徒が多いという実態があります。特に、集団ではなく個人で解決しなければならない問題が生じると、持てる力を発揮できずに苦しむ場面が見られます。

したがって、校内だけでなく、外部との多様なコミュニケーションを通して物事を考え行動する体験が、生徒達には必要であると言えます。

Ⅱ　課題の解決にむけて

1　めざすこと

福祉をテーマに地域の異年齢の方々との交流を通して、「人々の幸い」のために自分たちができることを考える機会とする。

2　考え方

(1)　自分たちの活動を通して地域の「福祉」を見つめる交流活動を設定することで、３年間のまとめとしての「総合的な学習の時間」に取り組むことができるのではないか。

(2)　図書館ボランティア「あっぷっぷ」の指導を受け、生徒達が「読み聞かせ」等の表現活動を通して異年齢集団と交流を図ることにより、多様なコミュニケーションの重要性を認識できるのではないか。

(3)　地域の団体等との連携を図ることにより、一村一校でしかできない有意義な交流活動を行えるのではないか。

Ⅲ　こんな実践を

1　地域ゲストティーチャーの活用

(1) 地域に伝わる歴史を学ぶ

野田塩に関わる「撫でベゴ」について、地域のＮＰＯ法人の方をゲストティーチャーに迎え、学習会を実施しました。

(2)　図書館ボランティア「あっぷっぷ」との交流学習

ア　「読み聞かせ」の学習会

イ　中間発表会を行い、指導を受けること

「読み聞かせ」学習会の様子

2　交流活動計画の作成

村内の保育所、小学校、特別養護老人ホームに計画の趣旨を説明して協力を要請し、交流活動計画を作成しました。

(1)　小学生や地域の老人クラブとの浜清掃

(2)　保育所や小学校での絵本の「読み聞かせ」

(3)　特別養護老人ホームでの演劇演舞の発表

資料１　「総合的な学習の時間」年間計画
テーマ　「福祉」～異年齢の方々との交流を通して、地域の一員としての役割を考える～
月計画
５月　オリエンテーション、希望確認、グループ編成
６月　ＮＰＯ法人「野田塩ベゴの道」障子上氏による歴史学習会
図書館ボランティア「あっぷっぷ」による「読み聞かせ」学習会
７月　第１回フィールドワーク（浜清掃）
９月　中間発表会（再指導）
１０月　第２回、第３回フィールドワーク
文化祭における取り組み発表
１１月　野田村キッズセンターでボランティア（発展学習）
１２月　学習のまとめ（個人作文）

3　実践事例

(1)　図書館ボランティア「あっぷっぷ」による「読み聞かせ」学習会

ア　テーマ：「読み聞かせ」について知ろう

イ　時　間：２時間

ウ　講　師：図書館ボランティア「あっぷっぷ」の皆さん

エ　対　象：野田中３年生68名

オ　概　要

「読み聞かせ」についての説明を受け、実演を見せていただきました。その後グループに分かれ、演習を行いました。

カ　連携のポイント

朝読書の時間に中学生対象に「読み聞かせ」をしていただいている「あっぷっぷ」の皆さんに講師をお願いしました。様々な絵本に加え、紙芝居やペープサート、エプロンシアターなどを指導していただきました。

(2)　保育所での「読み聞かせ」交流会

ア　テーマ：「読み聞かせ」で交流しよう

イ　時　間：４時間

ウ　概　要

村内の保育所・小学校にお願いし、中学生による「読み聞かせ」交流を行いました。

エ　連携のポイント

計画は生徒の希望状況を確認して学年職員が作成し、図書館ボランティアや各保育所の保育士の方々の支援を受けながら計画を進めました。

「読み聞かせ」を行う生徒の様子

Ⅳ　まとめ～「喜ばれる」ことがやる気に！～

「読み聞かせ」交流を行うことで、生徒たちは、人々の役に立つ喜びを実感したようです。特に園児たちの笑顔や高齢者の方々から感謝されることが大きな感動となりました。「園児の笑顔に自分たちが勇気づけられた」、「つたない実践をあんなに喜んでもらえて嬉しい」、「園児や小学生にわかってもらえるよう努力することは楽しい経験だった」等、異年齢の方々との交流で得た喜びが、次の活動へのやる気につながっています。

11月には、野田村キッズセンター（児童館）で「読み聞かせ」等のボランティアを行いました。ここでは今まで身につけた力を発揮すると共に、小学生のために新たにゲームや手品を披露するなど工夫が見られ好評でした。

各施設のご理解とご支援をいただきながら、地域ボランティアの方々や野田村キッズセンターと連携し計画を進めることができました。生徒にとって「人々の幸い」を考える有意義な学習でした。